

平成25年度 産学連携評価モデル・拠点モデル実証事業 成果報告会

国立大学法人秋田大学



1

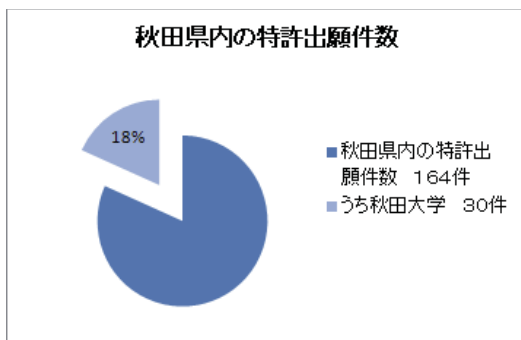
1. 大学の経営活動における本事業の位置づけ

秋田大学の目標

- 「教育文化学部」「工学資源学部」「医学部」からなる北東北の基幹的な大学
- 地域の中規模大学として、全学的な共生理念「**地域に根ざし地域とともに世界に歩む**」を掲げる
- 秋田県内を中心とする産業界や地域社会との連携を強め、技術や知見の地域還元**を目指して活動

知的財産

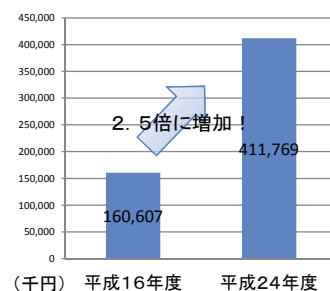
秋田大学は、秋田県内の特許出願件数の約2割(2011年)を占め、秋田県における研究開発の中心的な役割を果たしている。



知的財産から共同研究へ

知財の戦略立案を行い、価値向上を推進している。その結果、技術移転の効率化が図られ、「共同研究・受託研究の獲得金額」は年々増加している。

共同研究・受託研究獲得額の推移



2

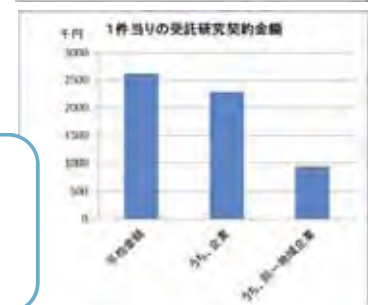
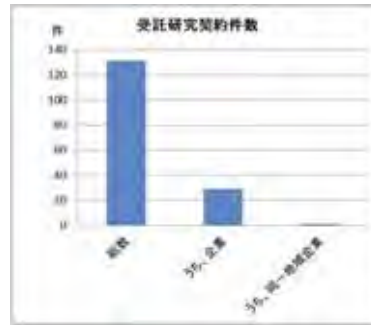
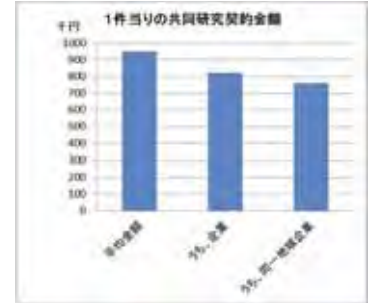
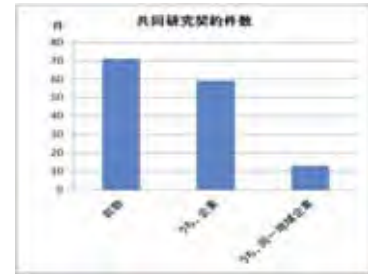
地域企業との連携の現状

○共同研究の状況

- ・県内企業との共同研究契約件数は全体の18.3%、企業との共同研究の22%
- ・県内企業との共同研究契約額は全体の14.7%、企業との共同契約額の20.4%
- ・1件あたりの共同研究契約額は全体の80.3%、企業との共同契約額の92.6%

○受託研究契約の状況

- ・県内企業との受託研究契約件数は全体の0.8%、企業との共同研究の3.4%
- ・県内企業との受託研究契約額は全体の0.3%、企業との共同契約額の1.4%
- ・1件あたりの共同研究契約額は全体の36.3%、企業との共同契約額の41.5%



地域との連携促進には更なる取組み強化が必要

地域企業との産学連携の推進のために

- ① 知的財産を用いた、新たな産学連携スキームの構築
- ② 地域連携の課題を的確に把握し、効率的な連携
- ③ 地域企業を掘り起こすための、関係機関等との連携強化の仕組みづくり

3

2. 評価モデル構築事業の概要と成果

○知的財産を用いた、新たな産学連携スキームの構築

これまで地域工業会と連携し、本学附属病院の現場問題を企業が解決する、マッチング事業『医工連携モノづくり推進事業』を実施。

→ 生まれた試作品は単なる試作で終わっている



知財戦略を用いた連携

医工連携研究の成果に意匠権や商標権を取得するなど、地域企業に魅力ある産学官連携のモデルを提示できないか。

○医工連携をモデルとした、新たな知的財産戦略の構築

現状: 特許・実用新案のみの知的財産戦略

新たな取組み → 地域中小企業との連携に立脚

知財戦略の拡充

公知化技術のノウハウ・実用化戦略

意匠出願戦略

形状意匠を活用した戦略

ブランドの構築

独自の商標ロゴマーク取得 秋田大学ブランドの構築

『特許』『実用新案』『意匠』『商標』を組み合わせた特実意商複合型知的財産戦略の立案と実施

追加指標

◆地域企業との連携に立脚した指標

○秋田大学では、「地域産業界との連携強化」及び「知的財産戦略の高度化」に着手している一方で、「地域への技術移転実例が少なく」ことが課題としてあげられる。

○これらを総合的に捉えるために、地域企業からの技術相談の件数や地域企業のニーズから始まる共同研究の件数、地域企業との特許の共同出願件数などを、知的財産戦略の高度化の観点から、地域企業との連携強化を評価するための独自指標として設定した。

◆商標およびブランドロゴ活用 に立脚した指標

○今後、特許だけでなく他の権利も活用した複合型の知財戦略を進めることを目指しており、今般は商標権を活用したブランディング戦略に着目した。

○この戦略の成果を総合的に捉えるために、秋田大学単独商標出願件数や秋田大学ブランドロゴ使用に関する評価指標を設定した。

○本指標については、特に商標権を活用したブランディング戦略の有効性を見極め、戦略の成果を定量的に捉えるのに有効と考えた。

○補助事業による実証

① 医療現場のニーズに基づく製品の研究開発

② 試作製品の現場適用と量産化の研究開発

③ 大学シーズを活用した研究開発

秋田大学ブランドロゴを活用したブランディング戦略の有効性を検証

地域中小企業との連携

4

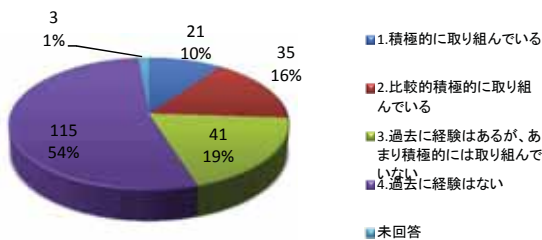
3. 構築した評価制度や制度改革の課題と今後の展望

評価制度

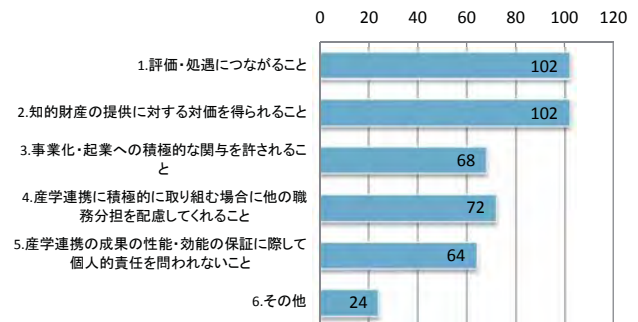
教員アンケートから見た課題

○教員を対象としたアンケートでは、産学連携に「積極的に取り組んでいる」「比較的積極的に取り組んでいる」と回答した教員は26%にとどまる
 →多くの教員が産学連携に取り組むようになる評価制度へ
 ○産学連携への関心を高めるためには、「評価・処遇につながること」「知的財産の提供に対する対価を得られること」と回答した教員が多い
 →産学連携の取り組みが、教員の評価や何らかのメリットにつながる仕組みが必要

問 貴殿は、これまで企業との産学連携にどのくらい取り組んでおられますか。共同研究や技術相談など全てを含めて、最も当てはまるもの一つに○を付けてください。



問 貴殿の企業との産学連携への関心を高めるためには、何が重要だとお考えですか。当てはまるものいくつかを○を付けてください。また、その他、あると良いと思うことをご自由にお書きください。



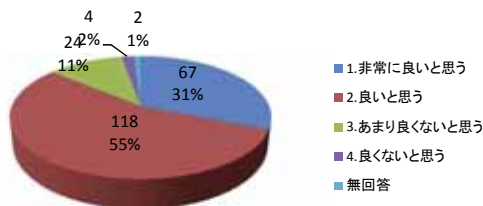
5

制度改革

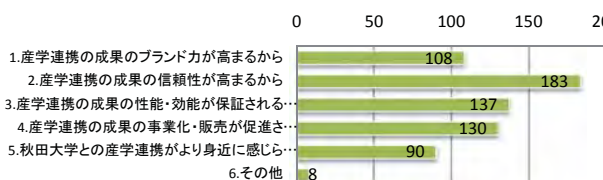
アンケートから見た状況

○教員アンケート、企業アンケートともロゴマークによるブランド化の取り組みは「非常に良いと思う」「良いと思う」が全体の約9割と良い評価を受けている。
 ○一方、その理由としては、教員アンケートでは「産学連携のブランド力が高まるから」「企業が秋田大学との産学連携をより身近に感じるようになるから」が多かったのに対し、企業アンケートでは、「産学連携の成果の信頼性が高まるから」が多く、とらえ方に差がみられた。
 ○また、具体的にどのような取り組みが良いかについても、教員は「産学連携の成果であることを示す商標（ロゴマーク）の発行」との回答が多いのに対し、企業は「製品の性能・効能の大学による保証」とそのとらえ方に差が見られた。
 ○以上のことから、産学連携の推進のためには、双方が興味を示す取り組みとすることが重要。

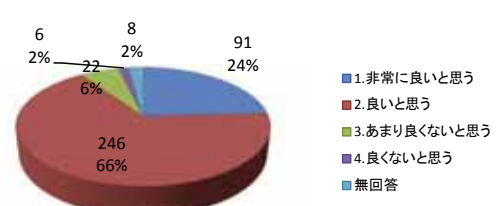
問 貴殿は、上述した、企業と秋田大学との産学連携の成果であることを表す商標（ロゴマーク）を新たに開発してブランド化する取り組みを、どのように思いますか。最も当てはまるもの一つに○を付けてください。（教員アンケート）



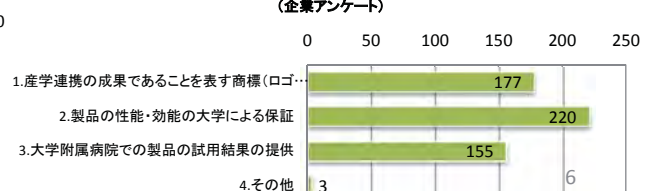
「1. 非常に良いと思う」または「2. 良いと思う」と回答した方にお伺いします。その理由は何か。当てはまるものいくつかを○を付けてください。（企業アンケート）



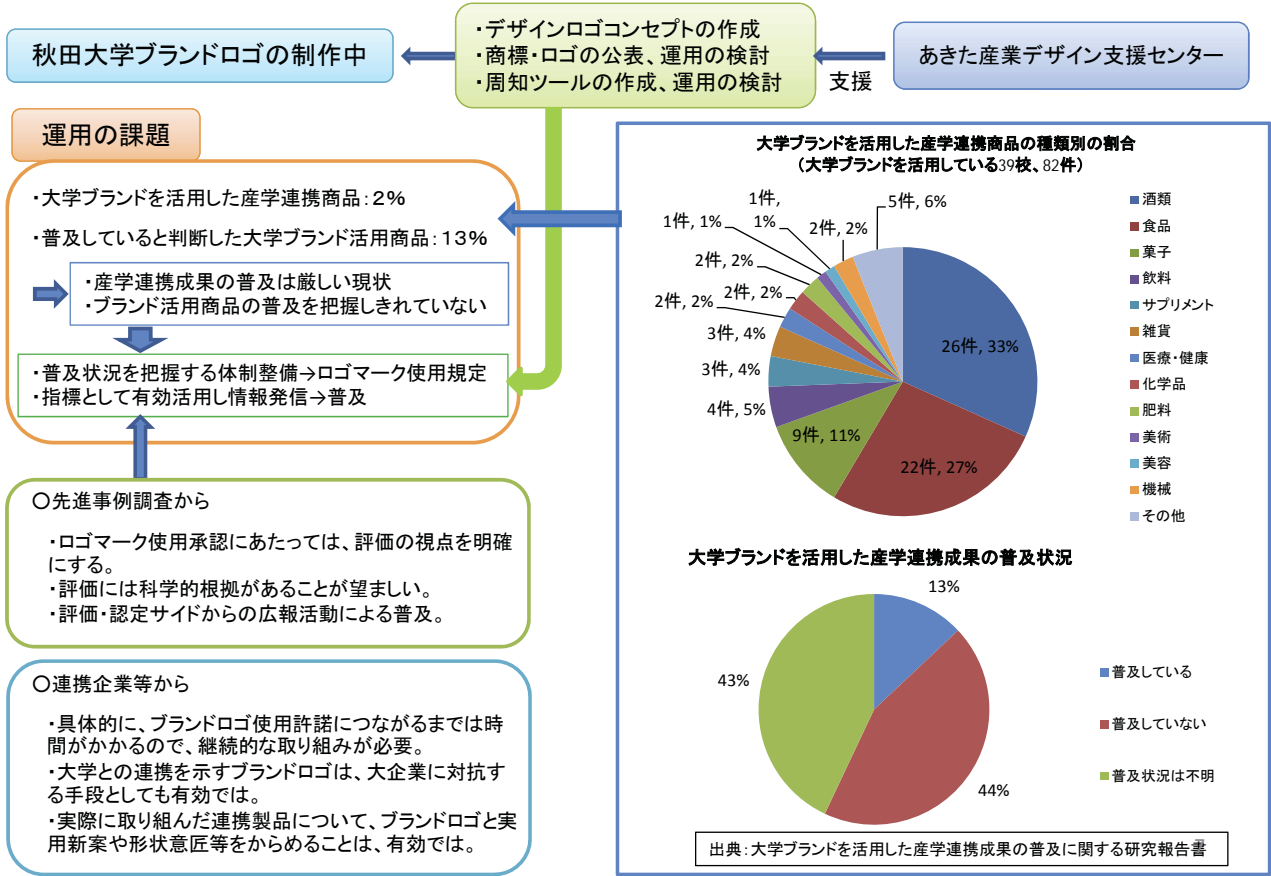
問 貴社（事業所）は、上述した、企業と秋田大学との産学連携の成果であることを表す商標（ロゴマーク）を新たに開発してブランド化する取り組みを、どのように思いますか。最も当てはまるもの一つに○を付けてください。（企業アンケート）



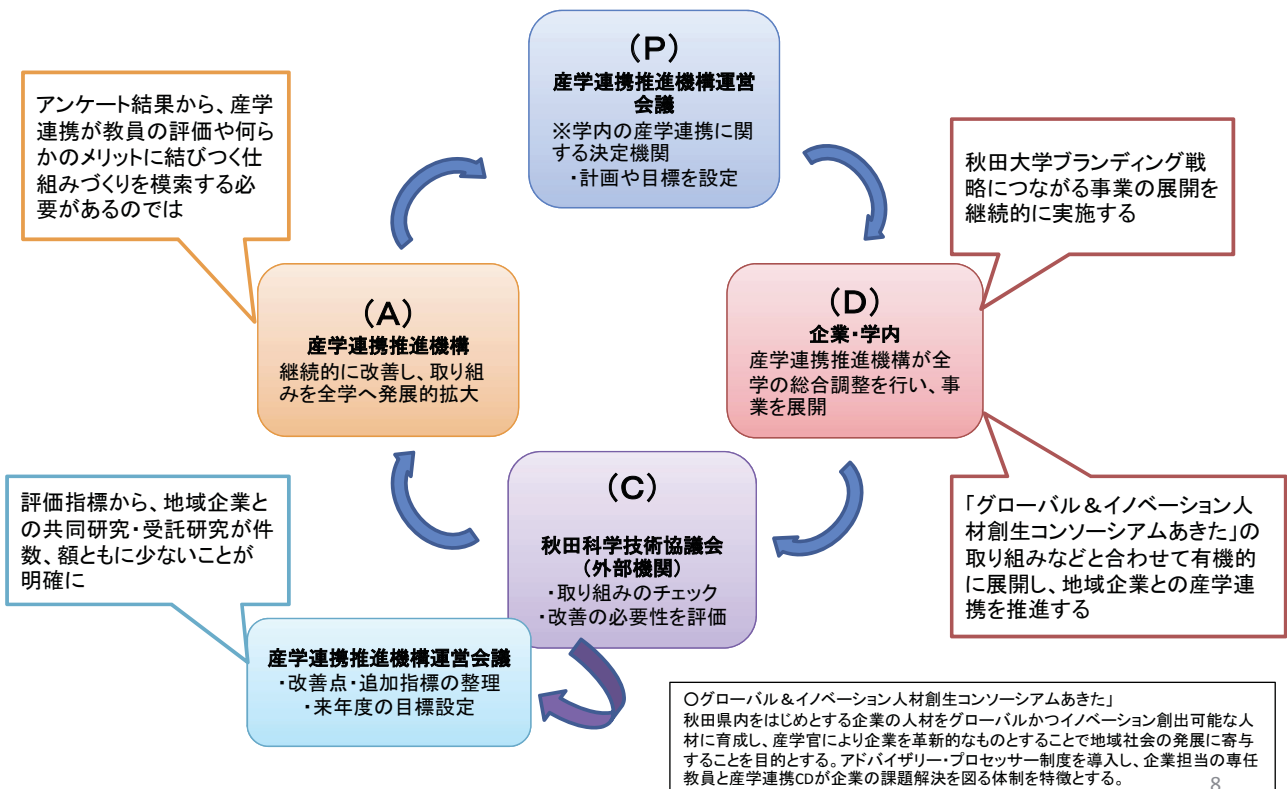
「1. 非常に良いと思う」または「2. 良いと思う」と回答した方にお伺いします。特にどのような具体的な取り組みが良いと思いますか。当てはまるものいくつかを○を付けてください。また、その他、あると良いと思う取り組みをご自由にお書きください。（企業アンケート）



秋田大学ブランドロゴの構築にあたって



今後のPDCAサイクル概念図



ご清聴ありがとうございました

